

『季節の宅配便』

近大発、技術連携の炎

7月16日、湯浅農場に近畿大学泉州高校の生徒さんが見学に来られました。今年9月、同農場にバイオコークスを用いた温風装置付の大型マンゴー栽培ハウスが完成します。そこで、マンゴー栽培の見学に合わせてバイオコークス研究所・井田先生と水野先生のご協力によりバイオコークスの講義と製造トラックによる実演を行いました。



バイオコークスの講義(①)にはじまり、あと1か月で収穫のマンゴーを見学、**口々においしそう～食べてみたい!**との声もれる(②、③)。製造トラックのウイングから現れた装置に**みんな圧巻**(④)、マンゴー栽培でたくさんでる剪定枝葉(⑤)、乾燥枝葉を砕いて、詰め込み(⑥)、約1時間でマンゴー枝葉の**バイオコークスが完成!**(⑦)。みんな気になるのがやっぱり重さやにおい。意外と香ばしくていい匂いです。実演は好奇心をととても刺激していました(⑧、⑨、⑩)。

バイオコークスを燃料として使用するだけでなく、燃焼後にできた灰も**環境に配慮した栽培循環**ができる可能性があり、その利用研究も今後進めていく予定です。

